様式第3号(第12条関係)

審議会等の会議の記録

会　議　の　名　称	令和８年度　第２回伊勢崎市社会教育委員会議
開　催　日　時	令和８年９月１８日（金）午後２時００分～午後３時４５分
開　催　場　所	伊勢崎市役所東館５階第４会議室
出　席　者　氏　名	【委員】１５名　（欠席５名） 小林委員、髙橋委員、渡辺委員、鈴木委員、栗原委員、 常木委員、赤石委員、西村委員、藤井委員、川上委員、 荻原委員、久保田委員、大谷委員、羽村委員、丸橋委員 【事務局】３名 川田課長補佐兼社会教育係長、山片課長補佐兼社会教育係長、 黛課長補佐兼社会教育係長、渡辺主査
傍　聴　人　数	０人（公開）
会　議　の　議　題	１　開　会 ２　あいさつ ３　報告・協議及び意見交換 （１）　研修報告 ・公民館「夏休みこども向け講座」等 （２）　本市社会教育事業について （３）意見交換 「本市における社会教育の取組や課題について」 (地域行事に子供を参画させる・子供主役の地域行事にするために　等) ４　連　絡 ・第５７回関東甲信越静社会教育研究大会群馬大会について ５　閉　会
会議資料の内容	○　令和８年度第２回伊勢崎市社会教育委員会議（資料） ○　伊勢崎市人権学習会チラシ ○　人権啓発フェスティバルinいせさきチラシ

会議における議事の経過及び発言の要旨	1　開　会 2　あいさつ【栗原議長】 3　報告・協議及び意見交換 （1） 研修報告 〇委員からの報告 ＜公民館等「夏休みこども向け講座」＞ 【委　員】・ロボットプログラミング教室では、姉が中学生ボランティアとして、弟が参加者として参加している家族がいた。公民館講座を通して、地域とのつながりがより深まっているように感じた。 （2） 本市社会教育事業について 【事務局】・以前、社会教育委員会議で話題になった「親を巻き込んで地域行事に参加できるようにする」、「子供達が興味を持って参加できるもの」という点を意識して、各公民館が事業に反映している。また、今年度は、中学生をボランティア募集するだけでなく、中学生が参加者として参加できる講座も増やした。 ※資料により放課後子供教室や公民館等で行われている「夏休みこども向け講座」の8月までの実施状況やその他、テーマに関わる事業について紹介や説明を行った。 ・「ロボットプログラミング体験会」 昨年度から２公民館で実施。→6公民館に拡充。 ・「サイエンスクッキング」 大学と連携し、共愛学園前橋国際大学短期大学部の出張講座を活用。親子で楽しく学び、体験できる場を設定。 ・「いせさき地域進路相談会」 家庭教育と社会教育の連携として市ＰＴＡ連合会事業として昨年度に引き続き今年度も開催を予定。地域で子供を育てる事業として継続して実施したい。 【委　員】・社会教育委員会議で話をしたことが生かされている。様々な（公民館）講座等がよくなっている。 【事務局】・茂呂公民館では、お茶、ものづくり、切り絵のほか、たくさんの公民館サークルと連携して、子供たちのサークル体験を多世代交流として行った。地域で子供を育てる取組として参考になるものである。 （3）意見交換（４つの小グループに分かれて話し合う） 「本市における社会教育の取組や課題について」 （子どもが主役の地域行事にするために） 〇社会教育の場となる地域行事や祭りを季節ごとにまとめたカレンダーの試案について意見を各班で出し合う。 Ａ班：カレンダーに載っている祭りの内容がわかるとよい。カレンダーの中に「子供が主役」ということを載せたらどうか。

	Ｂ班：秋祭りを各地区で行っているので「各地区秋祭り」と入れたらどうか。夏に実施した「ミニマルシェ」や子供の宿題を見る「子供向けの学習会」など、各地区での取組も入れたい。 Ｃ班：地区の夏祭りでは、子供達が運営側には入れるとよい。新しく地区に入ってきた人が参加しやすい行事を考える。 Ｄ班：行事をスポーツや文化的なものなど分野ごとに分けて整理すると見やすい。今後それぞれの行事の概要や画像などを入れられると様子が分かりやすくてよい。 ※議長により、カレンダーについて可能な限り意見を取り入れ、今年度中に「議論のまとめ」とともに提出することが確認された。また、このカレンダーは、来年度以降もアップデートしていくことが望ましいとされた。 ○「子供（中学生）の巻き込み方」と「地域の大人の意識改革」の視点で話し合う。 Ａ班：子供達が運営できる環境を大人が準備することが大事。子供たちが話しやすい雰囲気や失敗してもよい雰囲気を作り、大人が裏方にまわることが必要。 Ｂ班：学校や団体を通して子供を巻き込めるとよい。参加の少ない父親や外国籍の方々を巻き込めるようにしていきたい。そのための工夫が必要。 Ｃ班：小学生が参加し、中学生がそれを応援するという巻き込みの連鎖でつながっている行事もある。準備から子供たちが関われるようにして、子供たちにとって「自分たちのイベント」であることを実感できるようにする。 Ｄ班：体験型の行事が子供の興味関心をひく。子供たちが行事の企画をすると子供たち同士で参加を呼びかけ合うようになる。大人が知識を一方的に与えず、子供たちが考える機会を設ける。 ※意見を事務局がまとめ、次回の会議において確認し、「議論のまとめ」につなげていくことが確認された。 ４　連　絡 ○事務局から連絡 ・第５７回関東甲信越静社会教育研究大会群馬大会について ５　閉　会